

歴代会長

初代会長 中山 房蔵 氏 S27～S45
 2代会長 松井 利喜 氏 S45～S60
 3代会長 中村 洽二 氏 S60～H7

4代会長 前会長 峰岸 照男氏（平成7～25年）
 27年没9期18年 区連合会長もお努め頂きました。
 多くの方々に心からの哀悼の誠を捧げ感謝申し上げます。

南町会の成り立ち「50周年誌から抜粋」

当町会は 昭和5年 北側に幅2間半の「原の道」と言われた村道があり、その地名から取ったと思われる「新井原町会」の名前で発足したとある。

空襲で焼け野原と化した町の復興を目指して、昭和23年から区画整理事業が始まった。昭和37年に完成をみる民間主導によるまことに稀有な事業であった。先人達の努力が、整然とした今の街区の基礎となっているのだろう。

連合会が発足し35年・42年の2度に渡る町名・地番改正の混乱と周知徹底には大変な努力が必要であった事と想像される。

《それからの10年》

恵まれた立地条件

地域的には大変恵まれ、JR中野駅・西武新宿線沼袋駅にも、さほど遠くない駅前からちょっと離れた閑静な住宅街と言える。

町会内に、中野北口十字路商店会・平和公園仲通り商店会・薬師あいロード商店会に一部掛かる3つの商店会を有する。なんとと言っても早稲田通り一中野通りの幹線道路「新井交差点」がある事は、多くの金融機関、有名大型店を抱えるメインとなり得る。

各種パレード・祭礼神輿渡御等には、必要とする地域であり交通の頻繁な処にもなった。

変わる地域性と期待する活性化

時代の流れと共に生活条件の良さは住民の利便性に関わる問題でもある。中野区の発展は人口の増加を促す。当町会の中でも大きな屋敷が大型マンションになり、商業者は比較的広い土地を有している関係から、共同住宅に変貌、住民の増加に繋がる。それは町の発展のためには良いのだが、反して住民意識の希薄・連携意識の希薄さをも招き、町会事業参加がなかなか望めない。ごみ問題は顕著な事例である。

また地域に永く住んで居る人達の、「高齢化」、「少子化」も時代に沿う。

隣接する、平和の森公園再整備計画に中野体育館建設が有り完成後には平和の森公園通り（旧刑務所通り）に以前の様にバス運行がなされれば、地域活性に期待が持てる。

若い人達に期待と課題

時代の流れと共に生活条件の良さは住民の利便性に関わる問題でもある。中野区の発展は人口の増加を促す。当町会の中でも大きな屋敷が大型マンションになり、商業者は比較的広い土地を有している関係から、共同住宅に変貌、住民の増加に繋がる。それは町の発展のためには良いのだが、反して住民意識の希薄・連携意識の希薄さをも招き、町会事業参加がなかなか望めない。ごみ問題は顕著な事例である。

また地域に永く住んで居る人達の、「高齢化」、「少子化」も時代に沿う。

隣接する、平和の森公園再整備計画に中野体育館建設が有り完成後には平和の森公園通り（旧刑務所通り）に以前の様にバス運行がなされれば、地域活性に期待が持てる。

28年現在 世帯数 2,479世帯
 （18年 2,184世帯）295世帯増

